

成田市教育委員会会議事録

平成29年10月成田市教育委員会会議定例会

期 日 平成29年10月26日 開会：午前10時 閉会：午前11時28分

会 場 成田市役所503会議室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	小 川 新太郎
委 員	高 木 久美子
委 員	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗

出席職員

教育部長	宮 崎 由紀男
教育部参事	神 山 金 男
教育総務課長	鬼 澤 正 春
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	高 梨 哲 生
教育指導課長	高 安 輝 司
生涯学習課長	田 中 美 季
学校給食センター所長	山 田 昌 弘
公民館長	神 崎 良 浩
図書館長兼視聴覚サービスセンター所長	池 田 桂 士
保育課長	岡 田 康 裕
保育課係長	柴 田 正 久
文化国際課長	内 田 啓 子
文化国際課主幹	坂 本 雅 志
文化国際課係長	河 野 雅 祐

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言
2. 署名委員の指名 佐藤勲委員、片岡佳苗委員
3. 前回議事録の承認
4. 教育長報告

主催事業等

○9月28日 平成29年度第1回成田市学校給食センター運営委員会について

今年度第1回目の運営委員会を行い、美郷台小学校に建設予定の共同調理場整備状況、給食費にかかる支払い督促の状況等について報告し、委員の方々のご質問やご意見をお聞きしました。報告内容については、特にご質問等はありませんでしたが、給食費に関する私の考え方を述べたところ、委員の方から、デザートとして提供される「梨ゼリー」は、食べない児童が多いのではないか、食材の選定をしっかりとってほしいとの要望が出されました。「梨ゼリー」は食べ残しが多いというお話は、お子さんを通じて得た情報だと思っておりますが、正直、私は、そのような状況を知りませんでした。給食は季節に応じて、様々なデザートを提供しており、きっと、梨ゼリーもその一つだと思うのですが、ご意見をいただいた方は、ご自分が給食を試食した際、デザートとして提供されたゼリーは、見ただけでおいしそうではなかったのでは食べなかったということもおっしゃっておられました。子どもたちもそうですが、誰かが、「これは美味しくない」と、強く言えば、他の人も食べにくくなってしまいがちです。献立の工夫はとても大事なことです。同時に、好き嫌いをなく食べる子どもを育てることも給食指導の一環として、大切にしていかなければならないと改めて感じました。

○10月17日 成田市生涯学習推進協議会について

本年度第1回目の会議を行い、会長に明治大学教授の井田正道氏、副会長に体育協会の門馬紘一氏を選出しました。この協議会の内容は、社会教育委員会会議の内容とほぼ同じで、第2

次成田市生涯学習推進計画及び第2次成田市生涯スポーツマスタープランの進捗状況を報告し、参加された委員の皆様のご意見をお聞きして、今後の事業改善に役立てていこうとするものです。事前に資料は配付済みとはいえ、なかなかこの場で意見を述べるのは難しいようで、あまりご意見をいただくことはなかったのですが、これらの会議を主催する側としては、あらかじめ各委員から、意見聴取した後、会議を開催するとか、もう少し容易に意見交換ができるような内容にする等、会議の運営の仕方を工夫していく必要があると思いました。

その他

○9月28日 第2回総合計画策定委員会について

本年度第2回目の総合計画策定委員会として、「NARITAみらいプラン」第3次実施計画の財政状況について、「NARITAみらいプラン」第3次実施計画 主要事業報告書の2件を審議しました。教育委員会関係では、何と言っても仮称「大栄みらい学園」の建設事業が、多額の予算を必要とする大規模事業であり、この他にも学校給食共同調理場建設などもあって、こうした事業が完了しないと、なかなか次の新しい事業に進めないものと思っています。市全体としてもいくつかの大規模事業が同時進行中ですので、今しばらくは厳しい財政状況となるのもやむを得ませんが、それも、あと数年のことです。その後は、教育委員会としての重点施策を、教育内容の充実に焦点を絞り、全力を挙げて取り組んでいきたいと考えています。

○9月29日 2017成田POPラン大会第2回実行委員会について

今年度のPOPラン大会は、11月12日の日曜日に中台陸上競技場で開催される予定ですが、本大会を組織する実行委員会の第2回目の会議でした。昨年度との違いは、大会役員としてご出席いただいていた教育委員の皆様が、今年度からは来賓としてご招待させていただくことになったことでしょうか。先日開催されたスポーツフェスティバルと同様の変更となりました。なお、今年度は応募が4,925名あったそうです。この内、市内在住者は1,534名でした。また、ゲストランナーとして佐倉アスリート倶楽部から何名か参加していただけたということですが、それ以外にフルマラソンで2時間8分7秒という記録を持つ早田俊幸選手も参加していただけたとのこと。早田選手はスタート前に準備運動を指導していただきます。大会当日が天気に恵まれますことを祈りたいと思います。

○10月 1日 成田市国際市民フェスティバル2017・子ども会まつりについて

今年も素晴らしい天候に恵まれ、大勢の大人や子ども、そして国際色豊かな方たちの参加が

あり、楽しく過ごせた一日となりました。教育委員の皆様、全員にお越しいただくこともできて、大変良かったと思えました。国際市民フェスティバルと子ども会まつり、これを合同で行うことについて、これまで、生涯学習課が主管課となっていました。シティブロモーション部ができたことにより、文化国際課が主管する部分と、子ども会を主管する生涯学習課に分かれ、一時は、それぞれ独立して実施したらどうかという問題まで浮上していたようです。しかし、私は、それぞれ別々開催だったものを、同時開催にした経緯を考えると、こちらの都合で再び元に戻すような対応はいかなものかという意見を持っていました。結果的に今年は同時開催で実施され、多くの子どもたちが参加・体験できる内容も多く、それなりの成果があったものと感じました。今後については、参加団体とよく協議して、より良い方策を立ててほしいと思っています。

○10月 2日～5日 平成29年度第1回成田市職員選考委員会（面接試験）について

4日間かけて、一般行政上級職、同じく土木、建築、司書、保育士の各部門の職員採用選考、最終面接を行いました。採用枠は限られていますので、この面接を通過できる者はほんのわずか。特に、他の自治体であまり採用の無い司書に至っては、最終面接でも10倍を超える倍率となりました。それだけに面接官の責任も大きく、慎重に審査いたしました。さすがに最終面接に臨む方たちは、なかなか甲乙つけがたいほど、優れた資質をお持ちのようでしたが、やはり、優れたコミュニケーション能力、明るく健康な人物、自分の気持ちを素直に表現できる人物には、高得点を付けました。もう、最終合格者は内定していますが、今年の特徴の一つとして、最終面接を辞退した受験者は1名のみというお話でした。これは、例年にない状況で、どうしても成田市で勤務したいという思いが強かったものと考えられ、良い傾向だと思えました。入所してからは、それぞれの職場が人を育てます。先輩は信頼され、尊敬されることで、新人も伸びてきます。良い職場でありたいと思っています。

○10月 6日 第12回U-15全国KWB野球秋季大会について

KWBボールという軟式と同じ素材で重さ・大きさは硬式と同様のボールを使っての中学生の全国大会が、今年も成田市を中心として開催されることになり、その開会式に出席してまいりました。中学生対象の野球には、リトルリーグなど、硬式ボールを使用した野球もありますが、軟式ボールの方が身体にかかる負担は少なく、安全に技術向上を目指せるというねらいもあるようです。また、リトルリーグ等は社会体育の一環として実施されているのに対し、KWBボールの大会は、学校の教員が大きく関わっている大会でもあります。その特質から、女子

野球も同時に実施されていて、男子に負けない力強さを発揮しているようです。開会式では各チームの主将が出席し、それぞれ、自分たちがこの大会にかける意気込みを語ってくれました。そのひたむきな気持ちに打たれました。

○10月 7日 第6回成田スポーツフェスティバルについて

今大会から、担当課が市長部局となったため、教育委員さん方は来賓としてお招きいただきましたが、私は大会副会長ということで、これまでと対応は変わりませんでした。今年度は当初から悪天候が予想されていたため、開催場所を体育館として準備を進めました。室内開催は初めての経験で、当初はどうなるか、心配はいただきましたが、結果的に大きな混乱はなく、成功裏に終了し、ほっとしたところです。また、「綱引き」「玉入れ」「8の字跳び」の、いわゆる得点種目は、全ての観客が見下ろせる体育館ならではの見通しの良さもあり、かえって盛り上がったのではないかとさえ感じた次第です。私は、特に、成田北高等学校女子バトミントン部の活躍が素晴らしかったと思いました。高校生が気持ちを合わせ、縄跳びに集中し、2分間で238回もの回数をノーミスで跳んだのは、「本当に素晴らしい」の一言です。以前は小学校区対抗の市民運動会でしたが、それがスポーツフェスティバルに代わって6年目。当初は、子どもたちの参加がどれだけあるのか不安はありましたが、地元高校生がこれだけ参加してくれるのはうれしい限りです。これからは、他の高校や専門学校、大学にも呼び掛けて参加を促していけたらいいなと思いました。

○10月10日 第5回成田市校長会議について

校長会議は月に一度のペースで開催していますが、私は他の行事もあって、毎回出席できるわけではありません。そのため、その都度、伝えたいことを文章にしてまとめておき、会議の冒頭でお話しさせていただいています。また、月に1回とはいえ、教育委員会からの伝達事項が多く、聞いている校長先生方からすれば、何か質問はありますかと聞かれても、なかなか質問もできないという状況かもしれません。この日は、私から、不祥事防止に関連して、教師の子どもたちへの対応について、留意すべき点等をお話しさせていただきました。また、来年から始まる特別の教科、道徳と、次期学習指導要領の完全実施に向けて次年度からの移行期間になすべきこと等を話し、校長先生方にもしっかりと考えていただき、市全体として、どの学校も漏れ落ちなく統一した方針で準備に取り掛かれるよう指示したところです。

○10月14日 成田市民短歌会について

今年も成田公民館で開催された短歌会に出席しました。私は、途中からの出席でしたので、それぞれ出展された方の句を読み上げ、互いに感想や意見を言い合っただけで会を進めている最中でした。今年は30人の方が応募されたということで、その中から、参加者がどの句がいいかを決め、投票する。そして、一番投票数の多かった句が「市長賞」、続いて、「議長賞、教育長賞、文化団体連絡協議会長賞」と続きます。ちなみに、今年の「市長賞」は、「白波の 打ちよす渚を杖すてて 駆けても見たや 遠き日のごと」。「教育長賞」は、「三年後の 期日指定の定期預金 その日私は何をしている」でした。参加者のほとんどが高齢の方でした。表彰式の会長さんの挨拶では、「今年は30人と、参加者が少ない。47人ぐらいはこの会に参加してほしい」と、述べられていましたが、出展された句を詠むと、「八十」とか、「米寿」といった文言が随分とみられ、皆さん、相当年齢を意識なされているのではないかと思います。だからこそ味わい深い句がたくさん出てくるのでしょう。高齢化は、ほとんどの文化団体に言えることで、現状のままこの会を運営するのは相当難しくなるのではと感じた次第です。

○10月16日 平成29年度千葉県教育庁北総教育事務所指導室訪問について（大須賀小学校）

大須賀小学校で指導室訪問がありました。本庁の指導課指導主事の先生も含めて、13名の先生方が訪問されましたが、それだけで、すでに大須賀小の先生方の数を上回っていて、何とも奇妙な光景でした。授業や学校経営について指導助言をいただけるということは大変ありがたいことですが、市教委からの要請を受けての訪問と言いながら、実のところ、教育事務所に「指導・助言」を自ら買って出て、実施しているのが指導室訪問の実態です。1学期に教育事務所長・次長・管理課訪問等を行っていて、これとは全く別に、全ての教員に正規の学習指導案を作成することを義務付けた教育事務所指導室の訪問があるというのは、教職員の多忙化が問題となっている現在、県教委としても実施後の評価をきちんと行って、これが適正な事業かどうか、しっかりと考えていただきたいというのが私の意見です。何故なら、次期小学校学習指導要領完全実施の折には、授業時間が確実に1時間増加します。そうすると、学校の多忙化はますます深刻になってきます。もう、そうした事態を考慮した新たな取り組みを始めていくべきだと考えるからです。

○10月18日 2017成田市青少年音楽祭について

今年の参加校は17校でした。成田高等学校附属小学校を除くと、市内の公立学校の参加は16校ということになります。中学校の参加はありませんでした。それぞれの学校の事情があ

るので、強制できるものではありませんが、1週間後の第二部会の音楽会には参加する予定のある学校が、この日は不参加という状況は、残念な思いです。参加校の中には、小規模な学校で、学校の全児童の半分が参加という学校もありました。小規模校だからこそ、こうしたコンクールとは違う「音楽祭」に参加する意義があると思うのです。

この日は、素晴らしい天気にも恵まれました。前日までの長雨、そして、翌日からも雨が続くという予報の中、まさに、奇跡的に晴れ渡ったとでも言いたくなるぐらいのさわやかな日でした。音楽発表の技術的な内容はともかく、とにかく皆、真剣に歌ったり演奏したり、その思いは十分感じられた一日でした。それぞれの学校、それぞれの子どもたちの家庭には、それぞれの特別な事情があります。しかし、懸命に取り組む子どもたちの姿は何にも増して清々しく、感動的でした。

○10月21日 「成田市御案内人 市川海老蔵 歌舞伎公演」について

今年も、市川海老蔵主演の歌舞伎公演を参観することができました。この日午後から開演となり、2回の公演がありましたが、2回とも、満席状態と伺いましたので、その人気の高さがうかがえました。昨年とはまた違った内容で、市川海老蔵の魅力がたっぷりと詰まっていたように思いました。これを見ていると、やっぱり歌舞伎座に行ってみたいと思わされます。

○10月24日 平成29年度印旛郡市社会教育功労者表彰祝賀会について

成田ユネスコ協会主催の社会教育功労者表彰祝賀会に出席しました。表彰をお受けになった方は、橋内忠成成田ユネスコ協会会長の他、ユネスコ協会の会員であり、市議会議員でもある青野勝行氏と上田信博氏の3人です。この祝賀会には、成田ユネスコ協会の会員の皆様20名ほどがお見えになっていました。ユネスコについては、アメリカのトランプ大統領が脱退を表明するなど、世界的には大変厳しい状況ですが、世界の教育、科学、文化の振興と発展に寄与する平和団体であり、特に、発展途上国にとっては、とても大事な存在だと思います。ただ、世界遺産の認定問題では、密室で行われているとか、一方的な見方で公平さに欠けるのではないかなど問題も存在します。それでも、世界のリーダーを標榜する国が脱退してしまうのは、大変残念です。

○10月25日 千葉県立栄特別支援学校開校記念式典について

すでに、本年4月から開校している「栄特別支援学校」でしたが、まだ、開校式は実施していなかったからという理由で、大分時間が過ぎましたが、この日、改めて開校記念式典を実施

し、小泉市長とともに、私も出席させていただきました。千葉県からは、森田健作知事や内藤敏也教育長などもご出席され、盛大に執り行われました。県立富里特別支援学校の児童生徒数が大幅に増加したことに伴って、こうして栄町の中学校跡地を有効に活用して特別支援学校を開校できたのは本当によかったと思います。栄特別支援学校に通う子どもたちの多くは成田市からと言う話を聞くと、「今さら…」と思われるかもしれませんが、本市の学校跡地に特別支援学校を誘致できなかったのは本当に残念な思いです。

○10月25日 平成29年度第二部会小中学校音楽発表会について

成田、富里、栄の3市町の学校で構成される、第二部会の小学校の音楽発表会が成田国際文化会館で開催されました。参加校は、合唱の部が25校、合奏の部が11校の計36校でした。この内、成田市からは、小学校、義務教育学校全25校の参加でした。私は午後から、第3部の合唱8校と、合奏4校の演奏を聴いたのですが、全体的に音楽のレベルが上がってきたなど言う印象です。ただ、無理をして高度な内容を追いかけると、子ども本来の音楽を楽しむ気持ちが消え失せてこないか心配になります。達成感を感じさせることは、とても大事で、そのための厳しい練習もあるとは思いますが、子どもたちの発達段階に合わせ、興味関心を持たせた指導を継続されることを願っています。それにしても、子どもたちの真剣な表情を見ると、胸に熱いものがこみ上げてきます。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：報告の中で、職員選考の面接のことがありましたけれど、昨今、公務員の一挙手一投足に対し、世間の目が厳しいということがあります。一般の方の場合だとあまり問題とならないようなことについても、問題にされたりネットに上に掲載されたりしますので、優れた資質ということも勿論ですが、心の強さといえますか、厳しい状況の中でも実力を発揮できるような方が採用されるとありがたいなと思いました。

また、スポーツフェスティバルですが、今年は、主催者側ではなく、来賓席となり、一抹の寂しさを感じました。来賓としての感想といえますか、雨天のため体育館での開催となりましたが、先程、教育長からもお話がありましたように、綱引き、玉入れ、8の字跳びに関しては、むしろ体育館の方が、まとまってできるというか、周りからよく見ることができて、コンパクトな感じで良かったと思いました。あと、昨年も言いましたが、大人対子どもで綱引きをするというのは、危ないし、そこは、やはり考

えてほしいと思います。

また、大須賀小学校への指導室訪問ですが、事務所の都合で学校に過度の負担をかけていることについては、教員の負担をできるだけ減らそうとしている中で、逆行するようなことですので、やはり教育委員として意見を言っていかなければならないと思いました。

また、ユネスコ協会に限りませんが、役員となった方が長年にわたり役員を務めていらっしゃる人が多いようですけれども、組織の新陳代謝といいますか、若い方をどんどん入れて活性化を図ることも大切だと思います。

議 長：指導室訪問につきましては、訪問の趣旨としてはよくわかるのですが、理想を言えば、学校が、こういう勉強がしたいので、そのための講師として教育事務所から派遣してくださいと依頼するのが本来的な趣旨であると思います。それとは別に、県の方から全ての学校にどうしても伝えなければならないことがあるという部分で指導することも確かにあるのですが、それはそれで、他に研修会もありますので、指導室訪問でなくてもいいのかなと私は思っています。やはり、学校が本当に勉強したいことを教えてくれるようなシステムというのをもっと重視してほしいと思っていますところ。

高木委員：私は、9月30日に成田小学校の運動会を拝見させていただきました。全ての先生方が、特に目立つということではなく、何と申しますか、無駄なくスムーズに動いて、子どもたちを主役にして押し上げているような運営の仕方が感じられて、とてもいい運動会で、私も、自分のところの園でも、このようにできたらいいなと感じました。また、たけのこダンスについては、毎年、微笑ましく見させていただいています。今年は、うちの園から入学したお子さんが、たけのこ学級で学んでいます。私としては、あの子は、本当に丁寧に関わってあげると、わかって理解していく子ではないかと思っています。たけのこダンスでの様子は、とても笑顔で、まっしぐらに走って行って自分の役割を演じていました。その姿を見たときに、教育の部分で的確な判断をされて、その子に合った教育を進めていくことは本当に大事なことはないかと改めて感じ、今年は特に、たけのこダンスに感激しました。

議 長：たけのこ学級は、特別支援学級で、教育上、特別な支援を要する子どもたちが学んでいます。

小川委員：10月1日の国際市民フェスティバルに出席しまして、秋晴れの中で盛況に行われたと思います。先程、教育長からもありましたが、シティプロモーション部の文化国際課と教育委員会の生涯学習課で、別々に実施するというのではなく、やはり、2つのイベントを一緒に行うから盛り上がるのであって、是非、その辺は、縦割りの行政とならないように、知恵を出し合って、より盛り上がるようなフェスティバルにしていきたいと思います。

また、10月7日のスポーツフェスティバルですが、今年は、残念ながら、雨天のため体育館での開催となりました。それでも、体育館は体育館で、良さもあったように思います。ただ、先程、佐藤委員も言われましたが、綱引きですが、子どもと大人が綱引きをしたら、子どもは大人に勝てる訳がないのだから、いろいろなやり方があるとは思いますが、子どもは子ども同士で対戦をすべきだと思いますし、勝ち上がった子どものチームと大人のチームが対戦する場合には、大人にハンディをつけての対戦にするなどの配慮をすべきではないかと思います。

それから、10月16日、指導室訪問がありましたけれど、1学期、所長訪問等で必ず学校に指導していたのが、ノー残業デーを作って働き過ぎにならないようにということでした。それなのに、事務所主導の学校訪問があると、指導案等の作成に相当な時間を要するわけです。むしろ、事務所側が仕事を増やし、残業を増やしているという矛盾が生じていると思います。

また、10月2日、スクールコンサートに行きましたが、今年は、成田エアポートシンフォニーオーケストラの演奏でした。子どもを楽しませる企画があつて、良かったなと思いました。特に、楽器の紹介のときに音を鳴らしてくれて、少し演奏したり、面白い音を出してくれたりして、子どもたちが喜んでいました。それから、オーケストラによる演奏で子どもたちが歌を歌ったのですが、何という歌でしたか…。

片岡委員：「ビリーヴ」でしたね。

小川委員：子どもたちが「ビリーヴ」を歌ったのですが、オーケストラと子どもたちが一体となり、一生懸命に、また、楽しんで歌っていたのがとても良かったです。ただ、その際、指揮者が、オーケストラの方を向いて指揮をしていましたので、子どもたちの方を向いて指揮をしてくれると、もっと良いのではないかとアドバイスをしたところ、

柔軟な対応をしていただき、午後の公演では、子どもたちの方を向いて指揮をしてくれたようです。今年のスクールコンサートは、大変良かったと思います。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第1号 「平成29年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（追加提案）について」

鬼澤教育総務課長：

議案第1号、平成29年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（追加提案）について、ご説明いたします。

本案につきましては、先月の教育委員会会議定例会に提案し、承認をいただいたところですが、その後、「成田市教育委員会教育功労者表彰規則」第4条に規定する功績彰に該当する個人2名、団体1チームの推薦がありましたので、本日、功績彰の表彰者について、追加提案をさせていただきます。

それでは、資料の3ページをご覧くださいと思います。まず、6番の 荘司 晃佑さんにつきましては、10月20日から22日に開催されました「第11回 U18日本陸上競技選手権大会」において、男子400メートルで第2位に入賞されたことから、功績彰の表彰者として提案するものです。

次に、7番の 清野 涼々花さんにつきましては、「第11回 U18日本陸上競技選手権大会」と同時に開催されました「第33回 U20日本陸上競技選手権大会」において、女子走幅跳で第3位に入賞されたことから、功績彰の表彰者として提案するものです。

次に、10番の 千葉県立下総高等学校 自動車部につきましては、「本田宗一郎杯 Hondaエコマイレッジチャレンジ2017第37回全国大会」の高校生クラスに2チームが出場し、Aチームが優勝、Bチームが準優勝されたことから、功績彰の表彰者として提案するものです。

また、資料2ページの、5番、村上 夏美さんにつきましては、既に功績彰の承認をいただいておりますが、9月30日から10月10日に開催されました「第72回国民体育大会」において、少年女子A400メートルハードルで優勝されたことから、事績欄にその成績を追記

させていただきました。

以上、平成29年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（追加提案）についての説明とさせていただきます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

《議案第1号に対する質疑》

高木委員：提案の内容ではないのですが、成田小学校に児童画コンクールで県知事賞に入賞した児童がいるのですが、功績彰の対象にはなりませんか。

鬼澤教育総務課長：功績彰については、全国大会の入賞者または関東大会の3位以内入賞者としていただきますので、児童画コンクールで県知事賞に入賞した児童を功績彰にするということとはいたしかねます。ご理解いただきたいと思います。

佐藤委員：スポーツの場合だと、関東大会・全国大会に行きやすいのですが、例えば、音楽や絵画となると、全国大会へのチャンスがあまりないように思います。表彰では、スポーツ関係ばかりとなっていますので、文化面に関する事績については、表彰のハードルが少し高いのではないのかなと感じています。今の規程では、このようになるのは仕方のないことですが、絵画で県知事賞に入賞した場合など、今後、議論していく余地があるのではないかと思います。

議長：ただ今、文化面についてのお話がありました。これは、表彰規程に関する議論の場で取り上げていくべき問題かと思っておりますので、よろしくお願いいたします。かつて、文化系では、高校生でしたが、全国規模の絵画コンクールで最高賞となり、表彰された方がございましたが、確かに、文化系で功績彰として表彰された方は多くはないですね。また、開催されるコンクールの数も、スポーツの大会に比べると少ないことから、中々、該当する方がいなかったのだろうと思います。

議長：その他、何かございますか。ないようですので、議案第1号「平成29年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（追加提案）について」を採決いたします。本議案

に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

(2) 報告事項

報告第1号 「本城小学校児童ホームの増設及び豊住小学校児童ホームの移設について」

篠塚学校施設課長：

報告第1号、本城小学校児童ホームの増設及び豊住小学校児童ホームの移設について、ご説明申し上げます。

お手元の資料をご覧ください。児童ホームは、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対して、放課後などに適切な遊びの場や生活の場を提供し、児童の健全な育成を図る施設でございます。

まず、本城小学校の児童ホームにつきましては、現在体育館内の会議室を児童ホームとして使用し、運営されておりますが、今後も児童数の増加等が見込まれることから、定員を50人から80人に増やし、学校敷地内に独立した二部屋型の児童ホームの整備が進められているところでございます。

次に、豊住小学校の児童ホームにつきましては、現在旧豊住中学校跡地の豊住ふれあい健康館の一部を借用し、運営されておりますが、本年度に実施の豊住小学校大規模改造工事に併せて、校舎内に児童ホームの整備が進められております。

これらの施設の開設時期ですが、本城第一、第二児童ホームは来年2月からを予定し、豊住児童ホームは3月に工事が完成し、4月から開設する予定でございます。

施設の概要につきましては、1ページの下段と2ページのとおりでございます。3ページは本城小学校の配置図となりまして、図面の上が北方向ですが、グラウンドの南側に児童ホームが設置されます。4ページは豊住小学校の配置図となりまして、校舎の中庭に面した場所に児童ホームが設置されるものでございます。

以上簡単ですが、ご報告とさせていただきます。

《報告第1号に対する質疑》

佐藤委員：豊住の児童ホームですが、現在、豊住ふれあい健康館に設置されていますが、これ

は、豊住小学校内に児童ホームができるまでの暫定的な設置だったということでしょうか。

岡田保育課長：豊住児童ホームにつきましては、設置当初より旧豊住中学校の校舎内の教室を活用しておりました。旧豊住中学校は、跡地利活用で豊住ふれあい健康館として整備されましたので、現在、健康館の一部を一時的に借用し、児童ホームを運営しておりますが、豊住小学校大規模改造工事に併せて児童ホームを整備いたしまして、校舎内に児童ホームを設置するものです。

佐藤委員：豊住ふれあい健康館内の施設の方が、だいぶ設備が良いので、あえて小学校内に造り直す必要はないのではないかと感じたのですが、最初からそのような計画であれば、結構です。

小川委員：豊住児童ホームの定員についてですが、豊住ふれあい健康館内の施設は35人なのに対し、新しい施設では定員15人とあります。現在、入所児童が17人いますが、この辺りはどのように考えているのでしょうか。

岡田保育課長：豊住小学校の児童数につきましては、本年度は50人、来年度以降は徐々に減少していく見込みで、平成35年度の児童数は33人と予測しております。

豊住児童ホームの利用率につきましては、現在、児童数の34パーセントとなっており、さらに、出席率を勘案いたしますと、現在、利用されているお子様は、全員、新しい施設の方でもご利用いただけます。また、今後、児童数が減少していく見込みであることから、定員を15人と設定しております。

小川委員：プレイルームにおいて、児童1人あたりに必要とされる広さには基準がありますか。

岡田保育課長：児童1人につき、おおむね1.65平方メートル以上という基準がございます。

小川委員：そうすると、新しい施設は、定員が15人ですから約1.7平方メートルとなり、面積基準を満たしますし、利用児童の出席率を考えると、定員15人で足りるということですね。

議長：現在のままでいいのではないかとのご意見もありましたが、やはり、児童ホームは小学校の中にある方が良いということで、小学校の大規模改造工事に併せて整備をするということです。

高木委員：本城児童ホームについて、第一・第二児童ホームと施設を増やしていくようですが、市全体で見ても児童ホームの利用者数が増えていく傾向にありますので、今後、利用希望に応じて施設を増やしていくという考え方なのでしょうか。先日、児童ホーム支援員の方とお話をしたのですが、夏休み中についても、通常の日と同じ料金で児童をお預かりしているということで、保護者の中には、就労していない日についても、1か月の利用料が5,000円と安いこともあって、夏休み期間中、開所している日は毎日預けたいという方もいるようです。児童の保護者を支援することは大切ですが、要望を何でも聞いていくというのはどうなのかなと感じます。この辺りについては、どのようにお考えですか。

また、この間の台風で、小学校は全部休業あるいは一部休業としましたが、児童ホームはどのように対応されたのでしょうか。

岡田保育課長：児童ホームにつきましては、学区の児童数が増えていく学校においては、施設を増やさざるを得ないという部分がございます。ただし、児童ホームを利用できるのは、あくまで、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童となりますので、申請時に就労証明書等を確認のうえ、利用を許可し、ご利用いただいているところですが、保護者の中には、仕事が休みの日であるにもかかわらず、児童ホームにお子様を連れてきてしまう方がいるようです。

台風時の対応につきましては、学校が朝から休校の際は、児童ホームについても同

様に休所といたしますが、児童が登校した後に学校が休業となった場合は、児童ホームを開所して、保護者がお迎えに来るまで児童をお預かりしております。

高木委員：保護者が就労等のために児童を預ける児童ホームについては、台風等で休校の際には、開所していただくのが本当はいいのではないかと思うのですが。

岡田保育課長：土曜日、あるいは夏休み等の長期休業中には、児童ホームを朝から開所しておりますが、平日については、放課後から児童をお預かりしている施設でございますので、支援員の急な配置等、対応できかねるというのが実情でございます。

報告第2号 「第2次成田市生涯学習推進計画及び第2次成田市生涯スポーツマスタープラン推進状況等報告書について」

田中生涯学習課長：

報告第2号、第2次成田市生涯学習推進計画及び第2次成田市生涯スポーツマスタープラン推進状況等報告書について、ご説明いたします。

広義の生涯学習、計画に言う生涯学習及び生涯スポーツは、市が行う全ての事業分野にまたがることから、市長を本部長とし、庁内各部長で構成する「成田市生涯学習推進本部」を組織し、事業の推進を図ることとしております。

また、各種団体の代表者等からなる「生涯学習推進協議会」のご意見を伺いながら進めることとしておりますので、各事業について平成28年度分の実績をまとめ、去る10月17日に生涯学習推進協議会を開催し、審議・了承をいただきましたので、本日、改めまして資料をお配りさせていただいたものでございます。

まず、生涯学習推進協議会でございますが、9月の教育委員会会議の報告事項でご報告させていただいたとおり、市長が委員を委嘱するもので、社会教育委員、体育協会や文団連、子ども会、PTA、スポーツ少年団などの役員、また、2名の公募委員を含め、20名の委員で組織しております。10月17日の会議では、各委員に市長より委嘱状を交付した後、会長・副会長を互選し、その後、会長に選出された明治大学教授の井田先生の議長により、生涯学習推進計画、生涯スポーツマスタープランの進捗状況を報告させていただきました。

委員の皆様からいただきましたご意見といたしましては、まず、生涯スポーツに関しまして

は、学校体育施設開放に関して、以前、喫煙や時間を守らないといった問題を聞いたが状況はどうかというご質問がありましたが、現在は利用ルールの周知を図っており、そのような状況はないと回答させていただきました。

また、スポーツ推進委員の方から、成人高齢者体力・運動能力調査参加者数が少ない状況だが、来年度は中台体育館だけでなく、下総地区や大栄地区でも実施していきたいとお考えを伺いました。さらに、文部科学省の調査では20歳代と70歳後半の女性の体力は過去最高になったが、その一方、30歳代40歳代の男女の体力は急激に下降しており、もちろん忙しい世代ではあるが、運動をする機会が少ない状況であるということ、また、幼児期・小学校入学前に外で遊ぶ機会が多かった子供ほど、小学校入学後にスポーツをすることが多く、それがスポーツテストの結果につながっており、総合型地域スポーツクラブのキッズプログラム事業等の実施を通じて数値目標に近づけていければと考えている等のご意見をいただきました。

生涯学習に関しましては、まなび&ボランティアサイトへのアクセス件数減少についてご質問をいただき、コンテンツ内容に問題はないか、各団体のイベント参加の呼びかけをしているか、また、若者・中高年のユーザーが見やすいサイトや内容にすると良いのではないかとのご意見をいただきました。

以上、生涯学習推進協議会におきまして取りまとめました、第2次成田市生涯学習推進計画及び第2次成田市生涯スポーツマスタープラン推進状況等報告書について、参考までにご報告させていただきます。

《報告第2号に対する質疑》

小川委員：評価というのは、ある程度、見える形でないと、実際の進捗状況等も見えてこない
ので、数値で評価していることについては、大変見やすく良いと思います。

いくつか質問があるのですが、まず、40ページの生涯学習推進計画で、市民活動支援サイトへのアクセス件数が減少してきていますが、これはどのようなことが理由
でしょうか。

田中生涯学習課長：これにつきましては、登録はしているものの活動をされていない団体につ
いて、整理をしたということもありますが、広報・周知が足りないという部分もあり、
アクセス件数が減ったのではないかと考えております。

小川委員：次に、41ページの各種相談体制の充実に関する事業、ここは大事な部分であると思いますが、相談件数については、毎年増えていて、特に、平成28年度は前年度に比べて5,000件近く増えているにもかかわらず、身近な相談員等の数が減っています。この辺りは、大丈夫なのでしょうか。

田中生涯学習課長：まず、増えている相談の内容についてですが、これを生涯学習の内容の向上と捉えて良いのかどうかというのがあります。相談の件数が増えていますのは、障害者相談・制度利用促進事業ですとか、家庭児童相談室運営事業でありまして、担当課からは、相談件数が増えることが望ましいことなのか、この数字については、今後、検討したいという意見がありました。当初、計画策定時に評価基準をやや広く設定してしまったこともあり、今後、考えなければならないのではないかといった意見もありました。

なお、身近な相談員等とありますのは民生委員等でございまして、中々、成り手が少ないといったこともあり、難しい状況にあります。

小川委員：やはり、悩みを持っている方が年々増えてきているということだと思いますので、相談内容をよく分析して、困っている人に手を差し伸べてあげられるような体制を作りたいと思います。

最後に、44ページ、生涯学習・生涯スポーツ施設の整備・運営等の充実に関する事業で、学校の体育館、校庭、プールのや運動公園等スポーツ施設の利用が非常に増えていますが、利用人数に対して施設は足りているのでしょうか。それとも、手狭になってきているのでしょうか。

田中生涯学習課長：施設の充足ということに関しましては、現在、老朽化により整備を行っている施設があることと、新たな施設を造っているといったことがありますので、担当課の方に確認したいと思います。

6. その他

その他 「国際こども絵画交流展 2017 並びに成田市折り鶴平和使節団について」

内田文化国際課長：

それでは、シティプロモーション部文化国際課より「国際こども絵画交流展 2017」と、あわせて「成田市折り鶴平和使節団」について、ご説明させていただきます。

初めに、10月1日に開催いたしました国際市民フェスティバルにご臨席を賜り、誠にありがとうございました。当日は、天候にも恵まれ前年を上回るにぎわいとなり、多くの方に楽しんでいただくことができました。来年も、更に皆さまに楽しんでいただけるイベントとして、企画運営してまいりたいと考えております。

それでは、恐れ入りますが、お手元の資料をご覧ください。「国際こども絵画交流展」につきましては、広く世界各地の“こどもたち”と、成田市内の“こどもたち”の絵画作品を紹介することにより、21世紀を担うこどもたちの夢と創造力を育み、絵画を通じてお互いの生活や文化について理解を深め合うとともに、市民の芸術文化の振興と発展に寄与することを目的として、平成10年度より開催しているものでございます。

本年度は、テーマを「食-Food-」とし、市内の小・中学校32校より679点、海外からは16ヵ国27都市より401点、合計で1,080点の出品がありました。10月9日に審査を終了し、成田市長賞を始めとする特別賞及びフレンドシップ賞を選定いたしました。

作品につきましては、11月18日（土）から12月1日（金）まで、成田市文化芸術センター・スカイタウンギャラリーで展示後、巡回展として市役所1階市民ロビー及び、成田国際空港第1旅客ターミナル5階のNAAアートギャラリーでも展示いたします。

なお、表彰式を11月25日（土）14時から、成田市文化芸術センターにて行う予定ですので、教育委員の皆さまにおかれましても、是非ご臨席を賜りますようお願い申し上げます。

また、詳細は未定でございますが、本市と昨年9月に友好都市締結をいたしました台湾・桃園市より、今回の特別賞受賞者を12月に桃園市に招待し、学校交流を行いたいとの要望をいただいております。

本市といたしましても、子どもたちにとって貴重な経験となるものと考えておりますので、今後、内容について桃園市と調整してまいります。

続きまして、「成田市折り鶴平和使節団長崎報告会」について、ご説明させていただきます。平成25年度から実施しております成田市折り鶴平和使節団派遣事業につきましては、本年度も市内中学校の代表11名を「成田市折り鶴平和使節団」として、8月7日から9日に被爆地であ

る長崎へ派遣し、平和祈念式典会場で千羽鶴の献納を行い、全国から集う青少年と共に平和学習プログラムや平和祈念式典への参加を通じて、戦争の悲惨さと平和の尊さを学んでまいりました。

団員 11 名が長崎で「見て、聞いて、感じた」ことを発表する報告会を、11 月 5 日の日曜日、13 時 30 分から、文化芸術センター・スカイタウンホールで実施いたします。

今回の報告会の内容は、北羽鳥にお住いの日暮淑さんの千葉市での空襲体験をもとに作成いたしました紙芝居「ねむの花に祈る」の発表と、折り鶴平和使節団による長崎報告となっております。

教育委員の皆様におかれましても、是非ご臨席を賜りますようお願い申し上げます。

以上、大変雑駁ではございますが、「国際こども絵画交流展 2017」「成田市折り鶴平和使節団」についてのご報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

《質疑》

佐藤委員：桃園市が特別賞の方を招待して、学校交流をするとのことですが、今年度、桃園市から絵画作品の応募はあったのでしょうか。

内田文化国際課長：作品の応募について要綱等を送らせていただいておりますが、今年度につきましては、残念ながら、桃園市からの作品の応募はございませんでした。

佐藤委員：では、これをきっかけに、来年度以後、桃園市から応募していただけることになりますね。

その他 「韓国・井邑市友好都市締結 15 周年 行政訪問団派遣事業について」

神山教育部参事：

成田市と韓国井邑市の友好都市締結 15 周年記念事業として行われることとなりました「日韓文化交流展」についてご報告いたします。

井邑市からの要請により、本年9月24日から27日までの4日間の日程で行いました訪問ですが、9月定例市議会開会中のため、小泉市長、関川教育長に代わり、シティプロモーション部の伊藤部長を団長に、文化国際課国際交流担当の坂本主幹と私の3名で参加いたしました。

まず、日韓文化交流展は、本市と井邑市の文化財の比較展示を行い、両市の歴史と文化に対する理解を深め、両市の絆を深めることを目的に、本年9月26日から翌年1月28日までの4か月の日程で開催され、本市からは、国の重要文化財となっている「人頭型土製品」や、市指定文化財の「ムササビ型埴輪」などの文化財約300点を展示し、井邑市の文化財約200点と合わせて約500点の展示を行うものであります。

開催に向け、井邑市の金生基市長は、「井邑の歴史と文化を確立して展示する井邑市立博物館が開館して5周年を迎え、10回目の企画特別展として友好都市である成田市を展示コンテンツに選んで二市間の文化と文物を比較展示する「異域萬里、類似点と相違点」を開催することになったのは、様々な面でとても意味のあることだと思います。」とされています。

私たち訪問団は、まず到着した24日は、井邑市の文化局長主催による夕食会に参加し、井邑市からは企画予算課の国際交流担当職員や博物館職員など7名が参加され、初対面にもかかわらず大歓迎を受けました。

翌25日は、井邑市への表敬訪問を庁舎1階の市長室で行いました。金市長は、「東京オリンピックや本市の太鼓祭りに参加された太鼓訪問団の話をされ、学生中心のホームステイ交流から今回、文化面での交流に進んだことは非常に意義があることで、今回の交流展を快く受け入れてくれた小泉市長に感謝します。」と話されました。

市庁舎外壁の電光掲示板による歓迎メッセージに驚かされ、表敬訪問終了後は企画予算課国際交流担当職員の案内で井邑市内を視察し、また、金市長主催の歓迎夕食会に招かれ、井邑市特産のポップンジャワインや紅葉美人韓牛などが振る舞われ、終始和やかな雰囲気でご飯いただきました。

日韓文化交流展の開幕となる26日は、井邑市の代表的な観光拠点である「内蔵山国立公園」を視察し、午後3時からの開会式に出席しました。式典には、金市長や市議会議員、議員、市や博物館関係者など約100名が出席しました。

式辞で金市長は、「今回の展示会が井邑市と成田市の新しい交流であること、友好都市締結20周年の時には、この展示会を成田市で開催してほしい。」と話されていました。

続いて、博物館前でのテープカットの後、博物館職員による展示説明が行われました。各コーナーには、同じ時代の頃と思われる両市の文化財を並べて比較し、類似点と相違点を見比べ

てもらえるように展示されていました。両市が判別できるように、色別のシールを付けてあり、大きさに差があってもどことなく似ているものもあれば、姿や形が違うものもありました。

なお、この企画特別展は、博物館職員の発案によるものでありますが、井邑市が予算を編成する段階で、一旦は取りやめとなりましたが、最終的には金市長の判断で実施するようになったとのことであります。市長も博物館職員を讃えておりますが、一人の博物館職員の情熱が人を動かし、実を結んだ結果であり、仕事に「思い」や「魂」が入っていると感じました。

そして、井邑市を離れる際、駅改札まで市職員が見送ってくれましたが、電車待ちしているホームでハプニングが起きました。なんと金市長が現れたのです。我々の見送りに来られたのかと恐縮してしまいましたが、話を伺うと、急遽ソウルに行く用事ができたとのこと、我々と同じ電車に乗るとのことでした。遅い時間になっての日帰り移動であり、市長の職務には日韓に差はなく激務であると感じたところであります。

私の個人的な感想になりますが、戦争による悲しい歴史を知る金市長にとって、日本との文化交流は特別な思いがあるのだらうと思いました。また、終始和やかな表情で、真摯に話される金市長ではありますが、握手の際の力強さと手の温もりがとても印象的でありました。

なお、この企画特別展は、来年1月28日まで行われていますので、興味のある方は足を運んでいただければと思います。成田空港から仁川空港まで約2時間半、仁川空港からソウル市内まで車で約1時間、ソウル市内から井邑市まで高速鉄道で約2時間と、移動だけでも1日かかりとなります。移動で特に注意していただきたいことは、列車とホームの高さが一致しておらず、2ステップの段差がある非バリアフリーですので、スーツケースなど大きい荷物を持ったままの鉄道の乗り降りが大変でありました。料理はキムチがメインではありますが、肉、野菜、魚といった食材で、調理的にも日本人に受け入れられやすいかと思いました。

今回の訪問は、国際交流事業において行ったものでありますが、文化財を展示するという企画特別展でありますので、教育部からも参加となり、結果につきましては、お手元の資料により10月17日に市長と両副市長へ報告しております。

《質疑》

小川委員：成田市の文化財と井邑市の文化財で、共通するような文化財はあったのでしょうか。

神山教育部参事：大きさや色については、若干、異なりますが、形が似ているものがありました。特に、食べ物を煮炊きするための土器をはじめとする生活用具や古墳時代の埴輪や

鏡などの副葬品は、形状も使用方法もほぼ同じであり、日本と朝鮮半島において文化的な交流が盛んに行われていたことがうかがえる資料が多く展示されておりました。

7. 教育長閉会宣言